



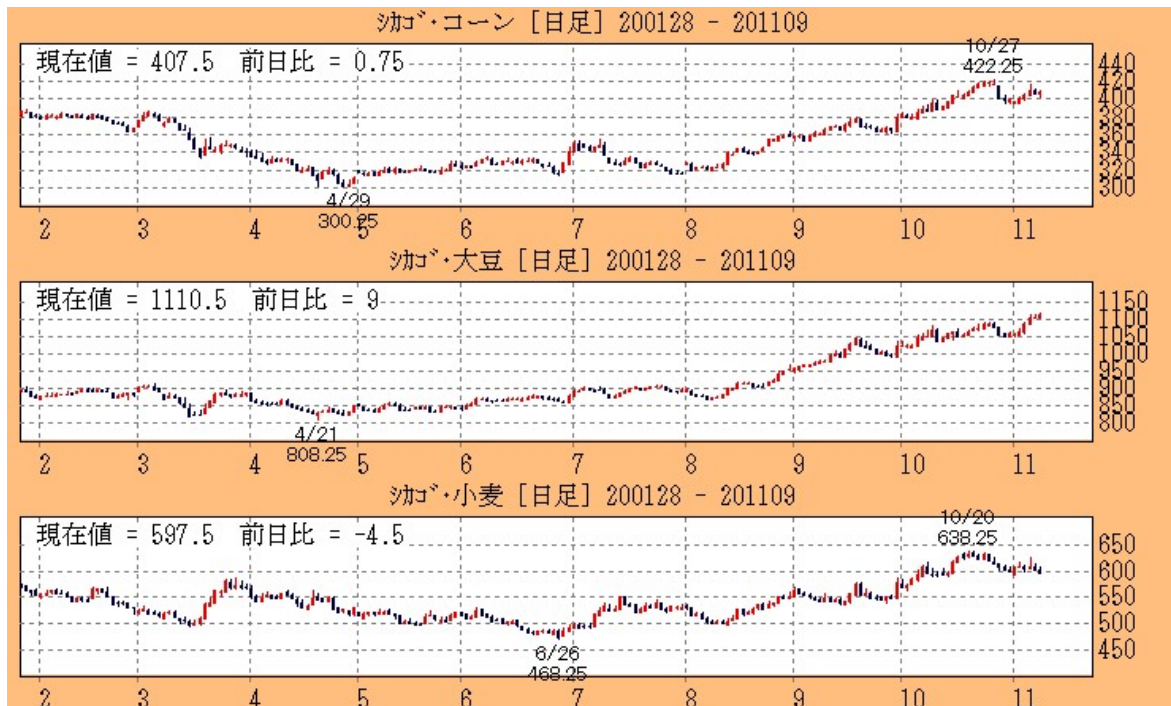
週刊穀物



世界の穀物情報がここに凝縮されています。
毎週水曜日夕方発行

トウモロコシは、大豆は続伸

2020/11/11



10日のシカゴトウモロコシ12月限は前日比+15.50セント高の423.00セントと大幅続伸。取引レンジは406.25セント～427.25セント。米農務省が発表した月例需給報告でトウモロコシの生産見通しを引き下げた。また、ウクライナの減産や中国の輸入増を背景に、米国の輸出は過去最高になるとの見通しを示し、トウモロコシの輸出を大幅に引き上げた。この結果、トウモロコシの期末（21年8月末）在庫見通しが7年ぶりの低水準に引き下げられ、事前予想を大幅に下回ったことから、需給逼迫を見込む買いが膨らんだ。一時、中心限月としては2019年7月26日以来の高水準となる427.25セントに達した。その後は利食い売りも見られたものの高値圏を維持したまま取引を終えている。

10日のシカゴ大豆1月限は前日比+35.50セント高の1146.00セントと大幅続伸。取引レンジは1108.00セント～1153.25セント。米農務省が発表した月例需給報告で米国産大豆の生産量を下方修正する一方、需要見通しを事前予想より大幅に上方修正したことで買いが先行した。また、大豆の期末（21年8月末）在庫見通しは7年ぶりの低水準に引き下げられことから、一時2016年7月以来の高値となる1153.25セントまで買われた。

10日のシカゴ小麦12月限は前日比+11.00セント高の608.50セントと小幅続伸。取引レンジは594.00セント～613.00セント。米農務省が発表した月例需給報告で20/21年度の米国産小麦の期末（21年8月末）在庫見通しが下方修正されたことや、供給見通しが大幅に下方修正された大豆やコーンにつれ高となり、約4週間ぶりの高い上昇率を記録した。



Crop Progress

トウモロコシ 18州			
Harvested	前年度	2020年度	過去5年平均
9月13日	3%	5%	5%
9月20日	6%	8%	10%
9月27日	10%	15%	16%
10月4日	14%	25%	24%
10月11日	20%	41%	32%
10月18日	28%	60%	43%
10月25日	38%	72%	56%
11月1日	49%	82%	69%
11月8日	62%	91%	80%

冬小麦 18州				冬小麦 18州			
作付け	前年度	2020年度	過去5年平均	Emerged	前年度	2020年度	過去5年平均
9月6日	1%	5%	3%	9月20日	2%	3%	2%
9月13日	6%	10%	8%	9月27日	8%	10%	8%
9月20日	18%	20%	19%	10月4日	22%	24%	21%
9月27日	34%	35%	33%	10月11日	37%	41%	35%
10月4日	48%	52%	47%	10月18日	50%	51%	48%
10月11日	61%	68%	61%	10月25日	60%	62%	60%
10月18日	74%	77%	72%	11月1日	69%	71%	70%
10月25日	83%	85%	80%	11月8日	76%	79%	78%
11月3日	88%	89%	86%				
11月8日	91%	96%	91%				

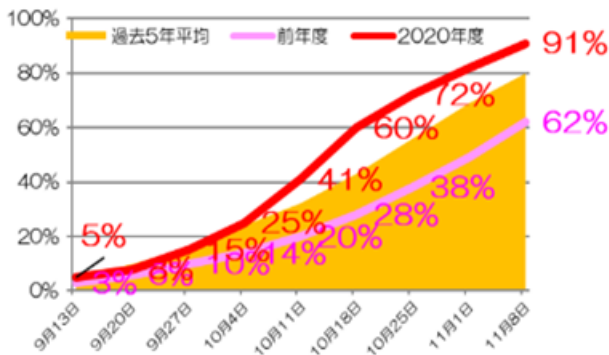
大豆 18州			
収穫	前年度	2020年度	過去5年平均
9月27日	6%	20%	15%
10月4日	12%	38%	28%
10月11日	23%	61%	42%
10月18日	40%	75%	58%
10月25日	57%	83%	73%
11月1日	71%	87%	83%
11月8日	82%	92%	90%

冬小麦						
作柄	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent	優と良
10月25日	6%	13%	40%	35%	6%	41%
11月1日	6%	13%	38%	37%	6%	43%
11月8日	6%	11%	38%	40%	5%	45%
前年度	3%	10%	33%	43%	11%	54%

11月8日の米国産トウモロコシの収穫は91%完了(前年は62%、過去5年平均は80%)大豆の収穫は92%完了(昨年は82%、過去5年平均は90%)冬小麦の作付けが96%(前年は91%、過去5年平均は91%)冬小麦の開花は79%(前年は76%、過去5年平均は78%)

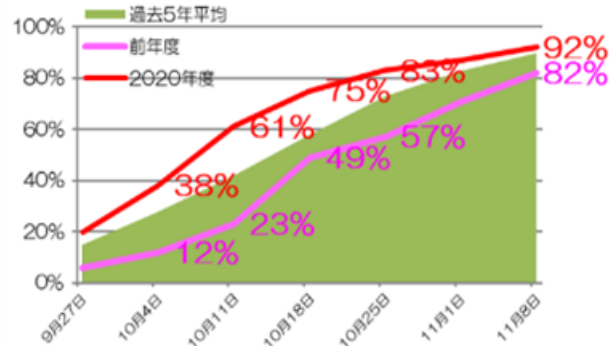
11月1日までのトウモロコシ

20/21年度の Harvested進捗状況



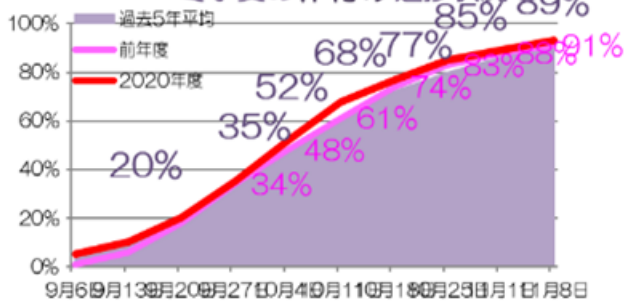
11月8日までの収穫

20/21年度産大豆の Harvested進捗状況



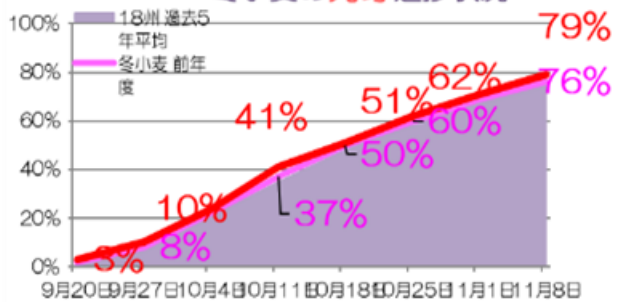
11月8日まで20/21年度米国産

冬小麦の作付け進捗状況



11月8日まで20/21年度米国産

冬小麦の発芽進捗状況





TOPICS 11月の需給報告

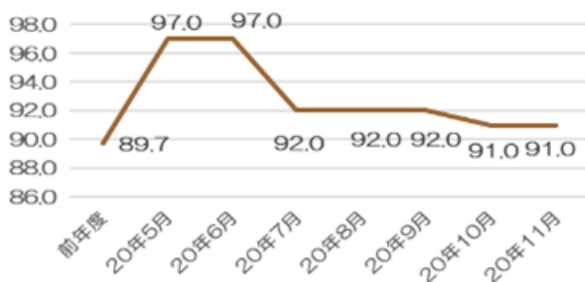
米国産トウモロコシ

単収が下方修正され生産予想が減少、一方需要は国内も輸出も増加予想で、期末在庫は大幅減

米国産トウモロコシの旧穀19/20年度は前月と変わらずだった。新穀20/21年度は、単収の予想が▲2.6ブッシェル/エーカー低下する見通しとなり、175.8ブッシェルとなった。そのため、生産量は145億ブッシェルに▲2億1500万ブッシェル下方修正された。一方需要も飼料その他が▲7,500万ブッシェルの下方修正となり、輸出は+3億2500万ブッシェルの上方修正となった。需要合計は+2億5,000万ブッシェル上方修正され、期末在庫は▲4億6,500万ブッシェルの下方修正となり、17億200万ブッシェルとなり、期末在庫率は10月の予想の14.9%から11.5%に下方修正された。輸出の増加は、ブラジル向けが含まれていると思われる。

米国産トウモロコシ	17/18年度	18/19年度	19/20年度	20/21年度									
	20年4月	20年11月	20年11月	20年5月	20年9月	20年10月	20年11月	前月比	前月比%	前年比	前年比%	17/18年度比	18/19年度比
百万エーカー													
作付面積	90.2	88.9	89.7	97.0	92.0	91.0	91.0	+0.0	+0.0%	+1.3	+1.4%	+0.8	+2.1
収穫面積	82.7	81.3	81.3	89.6	83.5	82.5	82.5	+0.0	+0.0%	+1.2	+1.5%	▲0.2	+1.2
ブッシェル/エーカー													
単収	176.6	176.4	167.5	178.5	178.5	178.4	175.8	▲2.6	▲1.5%	+8.3	+5.0%	▲0.8	▲0.6
百万エーカー													
期初在庫	2,293	2,140	2,221	2,098	2,253	1,995	1,995	+0.0	+0.0%	▲226.0	▲10.2%	▲298	▲145
生産	14,609	14,340	13,620	15,995	14,900	14,722	14,507	▲215.0	▲1.5%	+887.0	+6.5%	▲102	+167
輸入	36	28	42	25	25	25	25	+0.0	+0.0%	▲17.0	▲40.5%	▲11	▲3
供給合計	16,939	16,509	15,883	18,118	17,178	16,742	16,527	▲215.0	▲1.3%	+644.0	+4.1%	▲412	+18
飼料その他	5,304	5,429	5,827	6,050	5,825	5,775	5,700	▲75.0	▲1.3%	▲127.0	▲2.2%	+396	+271
食品・種子・工業用	7,057	6,793	6,282	6,600	6,525	6,475	6,475	+0.0	+0.0%	+193.0	+3.1%	▲582	▲318
エタノール等	5,605	5,378	4,852	5,200	5,100	5,050	5,050	+0.0	+0.0%	+198.0	+4.1%	▲555	▲328
国内消費合計	12,361	12,222	12,109	12,650	12,350	12,250	12,175	▲75.0	▲0.6%	+66.0	+0.5%	▲186	▲47
輸出	2,438	2,066	1,778	2,150	2,325	2,325	2,650	+325.0	+14.0%	+872.0	+49.0%	+212	+584
需要合計	14,798	14,288	13,887	14,800	14,675	14,575	14,825	+250.0	+1.7%	+938.0	+6.8%	+27	+537
期末在庫	2,140	2,221	1,995	3,318	2,503	2,167	1,702	▲465.0	▲21.5%	▲293.0	▲14.7%	▲438	▲519
在庫率	14.5%	15.5%	14.4%	22.4%	17.1%	14.9%	11.5%	▲3.4%	▲22.8%	▲2.9%	▲20.1%	▲3.0%	▲4.1%

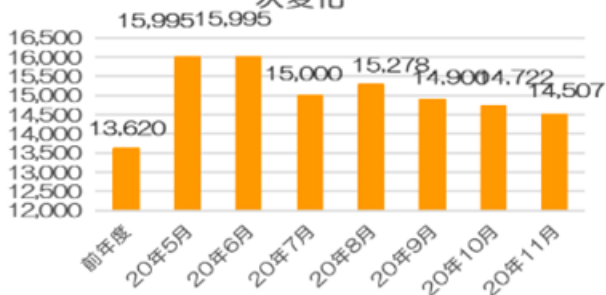
20/21年度の作付面積の予想の月次変化



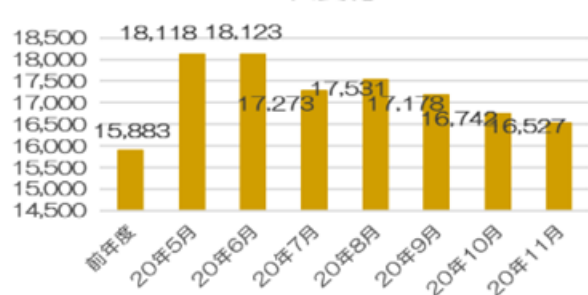
20/21年度の単収の予想の月次変化



20/21年度の生産量の予想の月次変化

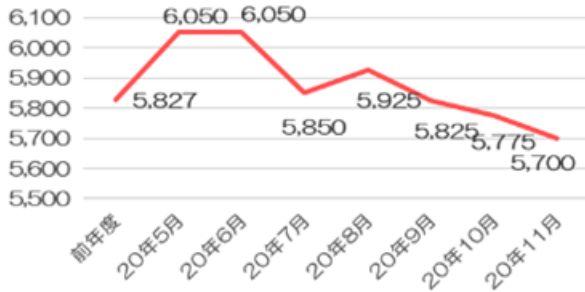


20/21年度の供給量の予想の月次変化

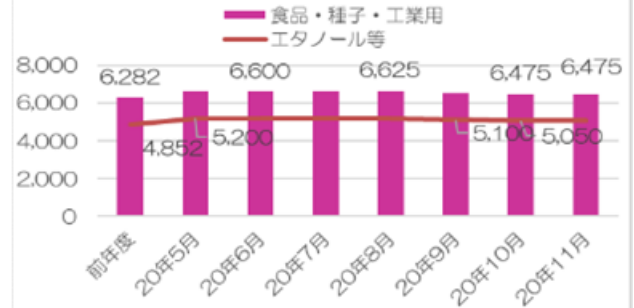




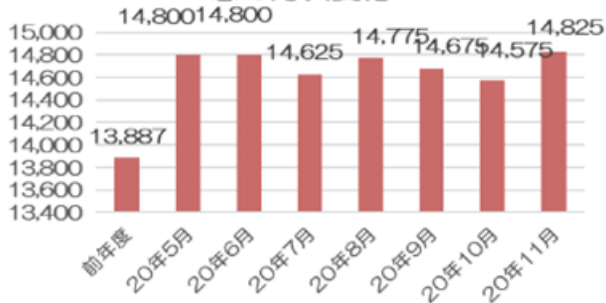
20/21年度の飼料その他の需要
の予想の月次変化



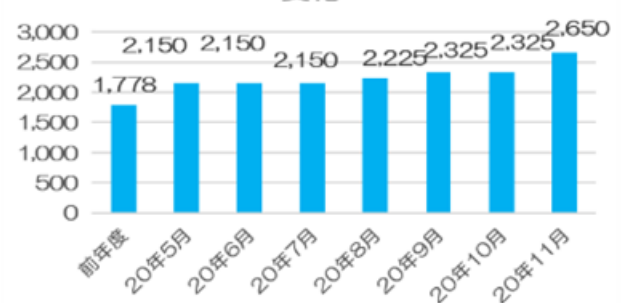
20/21年度の食品・種子・工業
用とエタノール需要



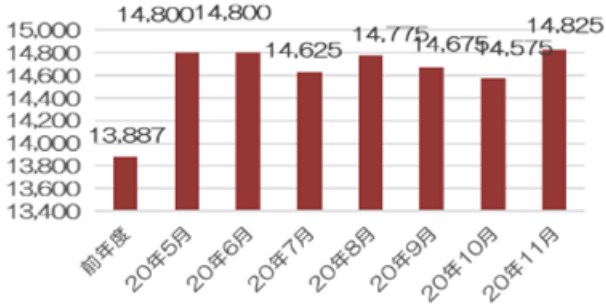
20/21年度の国内需要合計の予
想の月次変化



20/21年度の輸出の予想の月次
変化



20/21年度の需要合計の予想の
月次変化



20/21年度の期末在庫と在庫率
の予想の月次変化





世界のトウモロコシ（旧穀）

	2019/20年度							
	百万トン	期初在庫	生産	輸入	国内消費（食料）	国内需要合計	輸出	期末在庫
世界	18/19年度	341.6	1,122.7	163.0	700.8	1,143.5	181.6	320.5
	5月	325.9	1,133.8	167.1	705.1	1,145.0	171.6	314.7
	6月	325.4	1,099.2	167.4	696.3	1,134.1	169.8	290.5
	7月	328.8	1,105.1	167.8	696.5	1,135.0	170.8	298.9
	8月	328.6	1,108.2	169.3	694.4	1,129.1	169.9	307.7
	9月	329.6	1,104.9	169.4	694.2	1,128.2	169.9	306.3
	10月	324.0	1,104.0	166.1	693.9	1,125.5	166.6	302.6
	11月	320.1	1,102.2	167.4	694.9	1,126.3	167.1	296.0
	12月	320.1	1,102.2	167.4	694.9	1,126.3	167.1	296.0
	1月	319.2	1,108.6	167.6	696.3	1,127.2	166.6	300.6
	2月	320.4	1,110.8	167.4	703.9	1,133.4	165.6	297.8
	3月	320.5	1,111.6	168.0	704.9	1,135.2	165.8	296.8
	4月	341.6	1,123.7	162.9	702.3	1,144.3	180.9	320.9
	5月	341.3	1,123.4	163.0	702.4	1,143.8	180.9	320.9
	6月	320.1	1,113.5	169.6	706.2	1,120.7	169.5	312.9
	7月	320.1	1,113.6	169.2	706.6	1,121.7	171.2	312.0
	8月	320.1	1,112.4	168.5	705.8	1,121.2	171.2	311.3
	9月	320.5	1,112.8	167.5	708.0	1,124.2	170.3	309.2
	10月	319.8	1,116.3	167.1	714.2	1,131.9	170.6	304.2
	11月	319.8	1,116.2	165.8	713.6	1,132.7	171.0	303.3
	前月比	+0.0	▲0.1	▲1.3	▲0.6	+0.8	+0.4	▲0.9
	前年度比	▲21.8	▲6.5	+2.8	+12.8	▲10.9	▲10.6	▲17.1

19/20年度の旧穀については、世界の生産量は前月の予想から▲10万トンの微減、輸入が▲130万トン下方修正、国内需要は+80万トン上方修正、輸出が+40万トン上方修正だった。
期末在庫は▲90万トンの下方修正で、前年末より▲1710万トン減少すると予想されている。

世界のトウモロコシ（新穀）

	2020/21年度							
	百万トン	期初在庫	生産	輸入	国内消費（食料）	国内需要合計	輸出	期末在庫
世界	20/21年度	319.8	1,116.2	165.8	713.6	1,132.7	171.0	303.3
	5月	314.7	1,186.9	176.2	729.0	1,162.0	182.3	339.6
	6月	312.9	1,188.5	176.6	730.4	1,163.5	182.5	337.9
	7月	312.0	1,163.2	176.9	727.5	1,160.1	182.5	315.0
	8月	311.3	1,171.0	178.9	732.0	1,164.9	184.7	317.5
	9月	309.2	1,162.4	179.3	733.1	1,164.7	186.0	306.8
	10月	304.2	1,158.8	177.8	731.3	1,162.6	184.5	300.5
	11月	303.3	1,144.6	178.2	725.7	1,156.5	184.8	291.4
	前月比	▲0.9	▲14.2	+0.4	▲5.6	▲6.1	+0.3	▲9.0
	前年度比	▲16.5	+28.4	+12.4	+12.1	+23.9	+13.8	▲11.9

20/21年度の新穀については、世界の生産量が▲1,420万トン下方修正となり、国内消費も▲560万トン下方修正、期末在庫は▲900万トン下方修正され、前年度より▲1,190万トン少なくなっている。

主要生産国の生産量は米国とウクライナが下方修正されているが、南米は未だ反映されていない。

2020/21年度						
百万トン	世界	米国	ブラジル	アルゼンチン	中国	ウクライナ
5月	1,186.9	406.3	106.0	50.0	260.0	39.0
6月	1,188.5	406.3	107.0	50.0	260.0	39.0
7月	1,163.2	406.3	107.0	50.0	260.0	39.0
8月	1,171.0	388.1	107.0	50.0	260.0	39.0
9月	1,162.4	378.5	110.0	50.0	260.0	39.5
10月	1,158.8	374.0	110.0	50.0	260.0	36.5
11月	1,144.6	368.5	110.0	50.0	260.0	36.5
前月比	▲14.2	▲5.5	+0.0	+0.0	+0.0	+0.0
対5月比	▲42.2	▲37.8	+4.0	+0.0	+0.0	▲2.5

南米でラニーニャの影響を受けてトウモロコシや大豆の生産量が落ち込むとの見方があるが、11月までの需給報告では世界の生産量は前月に比べて▲1420万トン下方修正されているが、米国が▲550万トンの下方修正であって、ブラジルやアルゼンチンの生産量は10月と変わっていない。



ブラジルの輸入増も需給報告には反映されていない。カナダの国内需要と生産が急増している。

20/21年度	生産			20/21年度	国内需要合計		
百万トン	10月	11月	前月比	百万トン	10月	11月	前月比
世界	1,159	1,145	▲14.2	世界	1,163	1,157	▲6.1
米国	374	368	▲5.5	米国	311	309	▲1.9
中国	260	260	+0.0	中国	279	282	+3.0
ブラジル	110	110	+0.0	EU	87	82	▲5.5
EU	66	64	▲1.9	ブラジル	70	70	+0.0
アルゼンチン	50	50	+0.0	東南アジア	48	48	+0.0
ウクライナ	37	29	▲8.0	メキシコ	45	44	▲1.0
東南アジア	30	30	+0.0	エジプト	17	17	+0.0
メキシコ	28	28	+0.0	日本	16	16	+0.0
ロシア	15	14	▲1.0	アルゼンチン	15	15	+0.0
南ア	14	16	+2.0	カナダ	6	15	+8.5
カナダ	3	14	+10.7	南ア	12	13	+0.5
エジプト	6	6	+0.0	韓国	12	12	+0.2
				ロシア	11	11	+0.0
				ウクライナ	6	6	+0.0

中国の輸入が上方修正され、EUとカナダが下方修正されている。ブラジルは変わらない。
輸出は米国が上方修正され、ウクライナとカナダが下方修正されている

20/21年度	輸入			20/21年度	輸出		
百万トン	10月	11月	前月比	百万トン	10月	11月	前月比
世界	178	178	+0.4	世界	184	185	+0.3
EU	24	20	▲4.0	米国	59	67	+8.3
メキシコ	18	17	▲1.0	ブラジル	39	39	+0.0
東南アジア	19	19	+0.0	アルゼンチン	34	34	+0.0
日本	16	16	+0.0	ウクライナ	31	23	▲8.0
韓国	12	12	+0.2	ロシア	4	3	▲0.8
エジプト	11	11	+0.0	EU	3	3	+0.0
中国	7	13	+6.0	南ア	2	3	+0.5
カナダ	4	2	▲2.6	カナダ	7	1	▲6.3
ブラジル	2	2	+0.0				
米国	1	1	+0.0				
ロシア	0	0	+0.0				
ウクライナ	0	0	+0.0				
アルゼンチン	0	0	+0.0				
南ア	0	0	+0.0				

20/21年度	期末在庫		
百万トン	10月	11月	前月比
世界	300	291	▲9.0
中国	189	192	+2.6
米国	55	43	▲11.8
ブラジル	8	8	+0.0
EU	8	7	▲0.4
東南アジア	3	4	+1.0
アルゼンチン	3	3	+0.0
カナダ	8	2	▲5.8
メキシコ	4	3	▲0.1
韓国	2	2	+0.1
エジプト	2	2	+0.0
南ア	2	2	+0.7
ウクライナ	1	1	+0.0
日本	1	1	▲0.0
ロシア	1	1	▲0.2

期末在庫は世界的には大きく下方修正。米国、カナダ、が下方修正されている。南米・ウクライナに変化なし。



TOPICS 大豆など穀物の国際価格が水準を切り上げている by 日本経済新聞 11月11日 ① 朝

ラニーニャ現象の影響で主産地の南米では乾燥気候が続いて作付けが遅れ、2020～21年度（20年9月～21年8月）の生産が減りそうなためた。ブラジルでは国内在庫が少なく現地価格が上昇し、米国産を輸入する事態となった。穀物高が配合飼料価格に波及し、ブラジル産の鶏肉価格にも先高観が始まった。



ブラジルは最大の大豆生産国（ゴイアス州の大豆畑）＝ロイター

国際指標であるシカゴ先物（期近）は11月上旬現在、大豆が1ブッシェル11ドル前後。トウモロコシは4ドル前後。ともに今年最安値をつけた春先から3割強上昇し、大豆は約4年ぶりの高値圏にある。年初から3ドル台が続いたトウモロコシも10月中旬から4ドル程度で推移する。

主産国ブラジルの中西部や南部で乾燥気候が続き、土壌水分が低下。10月30日時点での大豆の作付け進捗率は35%と過去5年平均（38.9%）より遅れている。

米農務省の10月の需給報告では、20～21年度の大豆生産量予想は1億3300万トンと過去最多。米中貿易摩擦に伴い中国がブラジル産の調達を増やした影響で生産者の意欲が増し、19～20年度に米国を抜き生産量首位となったとみられる。だが足元では、乾燥予想で大増産に黄信号がともる。

トウモロコシの作付け遅れも懸念される。ブラジルでは大豆の後にトウモロコシを植える。作付けが遅れば生育期と乾期が重なり、収量減につながる可能性が高い。現地メディアは、作付け遅れを危惧した生産者が、将来の支払いなどのために手元にトウモロコシの在庫を抱え込む傾向にあると報じる。来春に収穫する20～21年度の新穀の作柄に神経質になる背景には、旧穀の在庫量の少なさもある。19～20年度産は豊作だったのに「ブラジル国内では現物不足の状況」（穀物コンサル会社グリーン・カウンティの大本尚之代表）で、現地の穀物価格は上昇している。

通貨レアル安で生産者の輸出意欲が高まると同時に、中国を中心とした大量調達もあって在庫が減った。11月に入り、ブラジルが米国産トウモロコシや大豆を買うようになった。「一大生産国のブラジルが米国産を買い付けるのは珍しい現象」（商品先物会社）

穀物高の影響は鶏肉市況にも及びそうだ。日本の鶏肉輸入量の7割強を占めるブラジル産は、飼料価格の上昇で現地生産コストも上がっている。飼料代がコストの7割を占めるとされる鶏肉の生産者への打撃は大きい。

現地では食肉処理する羽数を減らす検討も始まっており、ブラジル産の鶏肉価格が上昇するとの観測が広がっている。日本ではブラジル産モモ肉（冷凍品）の卸値が11月上旬時点で1キロ220円前後。過去30年で最も安かった9月から7%高い。政府の飲食業支援策「Go To イート」で外食向け需要が動いたためだが、「今後の値上りを取り戻した可能性もある」（食品加工メーカー）との声もある。

穀物高は全国農業協同組合連合会（JA全農）が公表する配合飼料の出荷価格にも波及しそうだ。10～12月期は三四半期ぶりに上昇。21年1～3月期も上がるとの見方は多く、日本の家畜生産者の経営を圧迫する

TOPICS 穀物相場が上昇 米農務省の11月報告、需給逼迫の観測生む by 日本経済新聞 11月11日 ②

穀物の国際価格が軒並み上昇した。米シカゴ市場の10日終値（期近）はトウモロコシ先物が1ブッシェル4.23ドルと1年4カ月ぶりの高値、大豆先物も同11.38ドルと4年4カ月ぶりの高値となった。ともに直近安値の11月初旬より1割弱高い。日本時間11日時点の時間外取引でも同水準で推移した。

米農務省が10日に発表した11月の需給報告で、2020～21年度（20年9月～21年8月）の米国産トウモロコシと大豆の期末在庫見通しがそれぞれ7年ぶりの低水準に下方修正された。市場関係者の事前予想をいずれも下回り、需給逼迫を見込む買いが膨らんだ。

トウモロコシの同在庫は前月比1181万トン減の4323万トンに引き下げられた。ウクライナの減産見通しや中国の輸入量が前月比600万トン上方修正され1300万トンになり、米国の輸出量が過去最高の6731万トンに増えるとの見通しが示された。



今後の予想

今朝の日本経済新聞朝刊（上①）で、穀物相場が上昇していると言う記事を読んで、11月の需給報告はさぞかし11月の需給報告では大きな変化が見られるだろうと思って、いつもより長く分析してみたが、前月から大きな変化は見られず、かつ南米が干ばつで生産が減少しているという内容は11月の需給報告には全く反映されていなかった。シカゴトウモロコシ価格も今のところあまり反発している様子は見られない。南米の供給不足は今後のデータで明らかになるものと思われる。

需給報告の内容だけで判断すると、米国とウクライナからの生産量が大きく下方修正されている。米国については、収穫はほぼ完了し、新穀20/21年度は、単収の予想が▲2.6ブッシェル/エーカー低下する見通しとなり、175.8ブッシェルとなった。そのため、生産量は145億ブッシェルに▲2億1500万ブッシェル下方修正された。一方需要は飼料その他が▲7,500万ブッシェルの下方修正となり、輸出は+3億2500万ブッシェルの上方修正となった。需要合計は+2億5,000万ブッシェル上方修正され、期末在庫は▲4億6,500万ブッシェルの下方修正となり、17億200万ブッシェルとなり、期末在庫率は10月の予想の14.9%から11.5%に下方修正された。期末在庫率は大きく下がっているのがタイト感があるとは言えるが、まだ11%の在庫率であり、逼迫するほどではないと思われる。

今後の南米の生産状況を見て、それが今後の需給報告にどのように反映されるかを見て行かないと、どれほど市況にインパクトがあるのかはわからないと思われる。

掲載される情報は株式会社コモディティ インテリジェンス（以下「COMMi」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMiが作成・表示したのですが、その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMiは保証を行なっておりません、また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はCOMMiに帰属し、事前にCOMMiへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

COMMiが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMiは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

COMMiおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

発行元：



株式会社コモディティ インテリジェンス 4 東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目11-3-310
 会社電話：03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692
 メールアドレス: kondo@commi.cc